

## 1133 救急治療における scintigram 検査の評価

鈴木慎一郎、奥住一雄、河村康明、福本幹雄、大沢秀文、山崎純一、天沼 満、長谷川 駿、飯田 駿、森下 健（東邦大、一内） 上嶋権兵衛、馬場英昭（同、救命セ）

救急救命センターに入院中の急性心筋梗塞を含む心肺疾患症例に移動形シンチレーションカメラ LEM を用いた緊急 RI 検査を施行する機会を得たので報告する。この γ-カメラの特徴は、小形軽量で移動が容易、固有分解能は 4.0 mm ( $^{57}\text{Co}$  FWHM) の性能を有し、又動態検査用のマルチイメージモードが組み込まれている等である。心筋梗塞症例では  $^{201}\text{Tl}$  心筋シンチ (3 方向) と  $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HSA によるブリーディングスキャンを施行して部位診断、重症度決定、治療効果などの判定を行った。肺梗塞症例に対し  $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MAA にて肺シンチを、大動脈瘤症例では  $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HSA によるカルジオアンジオグラフィーを施行し、早期にそれぞれの治療を正確に行い得た。心筋梗塞症例は、その後経時的に RI 検査を施行し治療ともなう左心右心機能の改善過程を知り得ることができた。またスワンガンツカシターによる圧データより右室梗塞と診断し得た症例では、発作直後の著明な右心機能低下が治療ともなう改善を知ることが可能で、治療の手段選択に有用であった。

## 1134 心筋梗塞における局所壁運動に関する検討

一局所駆出分画と 201Tl 心筋シンチグラムとの比較—田澤勝雄、森田利男、山田 真、市川信八郎、小林博徳、桜井 温、中田 健、小林芳夫（阪府立、心セ）、片山 晶（阪府立 RI）

心 RI angiography は、虚血性心疾患等における局所壁運動の非観血的検査方法として、その有用性が期待される。

今回我々は心筋梗塞例を対象として、局所駆出分画を算定し、その値の分布と心筋シンチグラムを対比しながら壁運動について検討した。

平衡時ゲート法により、1 心拍 16 フレームの LAO 像を得、半自動的に左室辺縁を描出し関心領域を設定、さらに VIP-450 のプログラムにより Septal, Apical, Lateral の 3 部位に分割し、各々の局所駆出分画 (R-EF) を算出した。又 201Tl 心筋シンチグラムは RI アンジオグラフィー施行後 1 W 前後に行った。

前壁中隔梗塞 (15 例) : 201Tl 心筋シンチで defect (-) 群では、Septal, apical の R-EF の低下をみ、defect (+) 群では lateral, Septal, apical 共に R-EF の低下をみた。下壁梗塞 (11 例) : 心筋シンチ defect (-) 群で Total EF は低下したが、R-EF 間に有差は認めず。心筋シンチ defect (+) 群では apical, lateral の R-EF の低下をみた。R-EF とその分布の検討は、局所壁運動の障害の程度、範囲の評価に有用と考える。

## 1135 スラントコリメータを使用した、多方向心筋長軸像による心筋シンチグラフィ-梗塞部位、拡がり診断の精度向上について—

植原敏勇、西村恒彦、林田孝平、大嶺広海、内藤博昭、小塚隆弘、林真、香川雅昭、山田幸典、伊藤慎三（国循セン、放） 朴永大、榊原博（同内）

従来、心筋シンチグラフィ-は、平行型高分解能コリメータを使用し正面・第 2 斜位・左側面像の撮像を行なってきた。第 1 斜位像は、コリメータと患者の距離が離れるため、像が鮮明でなく臨床に適しなかつた。第 2 斜位像は、短軸方向像であるため奥行きが深く重なりが多い像であり、また心尖部と下壁の区分も困難であった。そこで今回、スラントコリメータを使用し、正面と左側面からそれぞれ第 1 斜位 30°、60° 像をほぼ長軸像として鮮明に得ることができた。次に第 2 斜位像においても、スラントコリメータを使用し、頭側よりのぞきこむ言わゆる modified LAO 像として、MLAO-20°、45°、70° の三方向像を撮像した。MLAO 像は LAO 像に比し長軸像に近い像となり、左室の前壁中隔・後側壁・心尖部と下壁の重なりが除かれ、臨床的に心筋梗塞・虚血の診断に有効であった。

1136 陳旧性心筋梗塞における  $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -PYP 心筋シンチグラフィ-の検討

安田鋭介・吉田 宏・市川秀男・金森勇雄・（大垣市民・特放） 柴田哲男・鹿野昌昭・深谷哲昭 佐々寛己・（同・1 内） 中野 哲・（同・2 内）

今回我々は、左室造影、心断層エコーにて、左室壁運動の異常を確認された陳旧性心筋梗塞 16 例について、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -PYP による心筋シンチグラフィ-を施行し、以下の結果を得たので若干の考察を加え報告する。

陳旧性心筋梗塞 16 例を左室壁運動別に分類すると、dyskinesis 5 例、akinesis 7 例では、いずれも全例に、hypokinesis 例では、4 例中 2 例に、Parkey らの分類による集積度 2+ 以上の陽性像が確認された。

本法により心室瘤が陽性像を示す事は、以前より報告され知られているが、今回の我々の検討でも、左室壁運動が dyskinesis, akinesis の症例においては全例に陽性像が認められ、同様の結果が得られた。しかし hypokinesis の症例においても、その約半数に陽性像が認められた点、心室瘤における本法陽性の特異性に問題がある様に思われ、心筋梗塞再発例における本法の評価においては、十分に注意する必要があると考えられた。